



ようこそ、北見工業大学へ！

# 北見工業大学

## 国際交流センター ニュースレター

2013年9月・10月  
第95巻

特集（語学研修・交流研修）

## 2013年度後期 新規留学生9名入学

### 新入学（10月期）短期留学生及び研究生オリエンテーション

【10月1日（火）・A208】

後期授業が開始した初日、来日が遅れている1名を除き、短期留学生7名、研究生1名を対象としたオリエンテーションが実施された。オリエンテーションでは、許斐ナタリー国際交流センター長が手続きや生活面での説明を詳しく行った。手続き面では、チューターと共に市役所での各種手続きをはじめ、銀行口座の開設、郵便局への届け出など、留学生活の第一歩として必要な説明が施された。その後、大学での行事やイベント、留学生活中にかかる人がいるホームシックなど、留学に関する一連事項について丁寧な説明が行われた。留学生からは、ゴミの分別が大変だとの声が挙がったが、パンフレットを配布し、絵を見ながら分別の方法を覚えるように指示があった。その後、北見警察署の警察官から、日本での犯罪に巻き込まれたときの対応の仕方や自転車の運転に関することについての説明を受けていた。日本は治安の良い国というイメージがあるが、いつ、どこで犯罪に巻き込まれるかはわからないので、気を引き締めて留学生活を送ってほしいと思う。

### 留学生歓迎会【10月23日（水）・学生食堂】

秋期新入留学生9名を迎え入れ、留学生歓迎会が行われた。歓迎会には、高橋理事・副学長、田牧理事・副学長、田村副学長のご列席をはじめ、在学留学生やチューター、教職員など総勢95名が集い、交流を深めた。新入留学生9名は、英語を使わず、覚えてたの日本語で精一杯自己紹介をしてくれた。中国医薬大学（台湾）からの短期留学生、林怡慧さん、林沛祺さんは、「多くの異なる国の人と交流を深め、仲良くなりたい。また、スキーをすることが今から楽しみだ」と話していた。武漢科技大学（中国）からの短期留学生、厳佳玥さんは、「日本語の勉強を頑張りたい。友達もたくさんつくりたい。そして、日本の文化も学びたい」と話していた。この他、韓国からの短期留学生とモンゴルからの博士後期課程の学生も留学生生活を充実したものにしたいと語っていた。それぞれの目標を胸に、本学で楽しい留学生活を送ってほしいと願っている。国際交流センターの教職員も精一杯サポートするので、必要な際は、気軽に立ち寄ってほしい。



### 語学研修（ドイツ・カナダ）

今年も夏季休暇期間中に、ドイツ語研修及び英語研修が実施された。今年は円安のため、参加費用が昨年より高くなったものの、多くの学生が参加し、実施するに至った。帰国した学生達の感想から研修の充実さがうかがえる。



### 交流研修（韓国）

慶尚大学校工科大学との間で実施されている短期交流研修が9日間の日程で実施された。今年は本学が訪れる年であり、現地において学生をはじめ教職員同士の交流も行われた。

# 語学・交流研修特集

## ドイツ語 語学研修

【8月8日(木)～8月31日(土)

・フライブルク大学】

今年で三回目となるドイツ語研修が、許斐ナタリ国際交流センター長引率のもと、5名の学生が参加し、行われた。フライブルク大学は1457年に創立され、ヨーロッパの中でも最も歴史ある大学の一つである。また、2007年より、ドイツ国内9校の「エクセレント大学」の一つに数えられている。このような歴史と卓越した研究・教育環境のもと、学生達は午前中にドイツ語の授業、午後からは自由参加の演習やセミナー、講義などの参加し、多くの知識を習得していた。また、課外活動では、ドイツにあるノイシュヴァンシュタイン城の他、フランスのアルザス地方・ストラスブール、スイスのチューリッヒ、スイスのラインの滝、サッカーブンデスリーガ観戦など積極的に足を運んでいた。

今年も有意義な研修を終え、無事に帰国した。



### 【学生代表コメント】

津川 渚奈於さん(機械・社会環境系1年)

今回、約3週間のドイツ語留学に参加し、多くのことを学び、吸収できた。また、学ぶだけでなく、現地に行くことでしか得られない体験や、現地だからこそ出来た経験なども多くあった。ドイツ語の勉強は、当初数日遅れでスタートしたこともあり、放課後も学習の場で遅れを取り戻した。授業は約3時間とは思えない早さで終わってしまい、「もうおしまい!？」と1度となく思った。また、クラスにもすぐ馴染めた。課外活動では、市内観光や国外観光を行った。市内観光では近くの山に登ったり、ショッピングをしたり、食事をしたりした。店員との会話は基本ドイツ語で、通じる人には英語も通じた。このときが一番留学している気分になったと同時に、自分の英語力不足や英語が世界共通語であることを痛感した。しかし、言葉が通じたときや、物が買えたとき、意志が通じたときは、無意識に頬が緩むほど嬉しく感じた。研修を通じ、純粋にドイツを好きになれたような気がする。

### 【学生代表コメント】

鈴木 信太郎さん(社会環境工学科4年)

今回、1ヶ月間カナダ語学研修に参加して、自分にとって素晴らしい経験をする事ができた。最初は慣れない生活に苦しみ、苦難の連続だったが、終わってみればあっという間で、良い経験をたくさんできたとても濃い1ヶ月だった。英語に関しては、本当に重要なことは英語力ではなく、コミュニケーション能力だと思った。つまり、英語とはただのコミュニケーションツールでしかなく、コミュニケーションツールは何も言語だけではないと感じた。もちろん海外で仕事をしようと思えばかなりの英語力は必要だと思うが、身振り手振りも立派なコミュニケーションツールであり、積極性さえあれば簡単な人とのやり取りはなんとかできると思った。経験というのは、「する」だけでなく「活かす」ことができ初めて意味のあるものだと思うので、今回の経験を残りの大学生活、今後の人生にプラスになるようにしていきたいと思う。

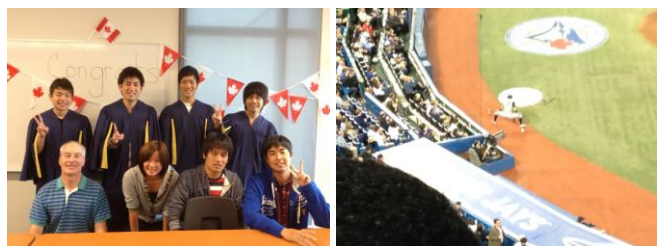
## カナダ 英語語学研修

【9月1日(日)～30日(月)・ハンバー工業大学】

2013年夏・英語語学研修が昨年同様、カナダのハンバー工業大学(トロント)において実施された。共通講座のボゼック講師が引率し、7名の日本人学生が参加しての実施となった。今年は円安傾向に陥ったため、昨年よりも参加費用が高騰したが、それでも多くの学生の参加があり、実施に至った。

学生達は、大学付属の英語学校において文法や会話など英語学習に取り組んだ他、ナイアガラの滝やメジャーリーグ観戦など、多くの場所に足を運び、研修を満喫して帰国の途に就いた。

研修に参加した学生からは、一ヶ月であったが英語力が向上し、また機会があればトロントを訪れてみたいとの声が挙がっていた。





## 韓国短期交流研修

【9月10日（火）～17日（火）・慶尚大学校工科大学】

毎年、相互に交流を深めている韓国・慶尚大学校工科大学との短期交流研修が、今年は本学から訪問する形で実施された。本学からは、許斐ナタリーセンター長をはじめ、職員1名、学生10名の計12名が参加して行われた。研修プログラムは非常に充実しており、学生達も毎日を充実して過ごすことができた。内容は、慶尚大学校の紹介や大学所在地についてのセミナー、韓国語入門講座、文化講座（韓国の伝統的な茶道）、市内視察など豊富な内容であった。また、研修には、慶尚大学校の学生も行動を共にしてくれたこともあり、学生同士の友情が育まれたとのことであった。全ては慶尚大学校工科大学の Kim Yeong 学長をはじめ、Koh Jinhwan 副学長、多くの教職員の方々の厚いもてなしがあったからこそ成功裏に終えることができたと思う。紙面を通じ、皆様にも心から御礼を申し上げる。



## まなび学級「つどいの会」異文化交流会（第7回）

【10月5日（土）・北見芸術文化ホール大練習室】

北見市女性国内研修のつどいの会主催の北見在住の外国人と交流する「第7回異文化交流会」が10月5日（土）午後2時から、北見芸術文化ホールで開催され、本学から機械工学専攻修士二年のアクバル アフメトさん（中国ウイグル自治区・M2）と国際交流センター長の許斐ナタリー先生（ドイツ）も参加し、自国や異文化についてショートスピーチを行った。アクバル アフメトさんは、自国の結婚事情について語り、結婚以前は互いの家を行き来できず、まず男性側が女性の家庭事情を聴き、それを父親に報告し、許可が出れば結婚ができるということであった。その際、男性側は衣服などをもって女性宅へ行き、お嫁に下さいというしきたりであるとのことだった。ナタリー先生は、当日が来日15年目にあたる記念すべき日であることを披露してくれ、日本とドイツの相違点についてわかりやすく説明してくれた。相似点では、勤勉さや経済発展などドイツと日本は非常に似ている反面、「おもてなし」の心はドイツにはないとのことであった。その一例に、レストランでの無料の水やおしぼりの提供、電車に乗務する乗務員のお辞儀など、来日当初は驚いたそうである。

来場者たちは、興味深く話に聞き入り、休憩時間を利用し、質問を行っている人もいた。スピーチの後は、菊人形作り、茶道、日本の伝承遊びをし、最後に全員で北見ばやしを踊ってお開きとなった。

## オホーツクふれあい広場2013【10月12日（土）・北見市勤労者青少年センター】

毎年恒例の国際交流増進の一大行事であるオホーツクふれあい広場が今年も実施された。本イベントは、オホーツク地域に住む外国人と地域住民が相互交流を通じ、国際交流や国際協力に対する理解を深めることを目的としている。本学からもこのイベントを盛り上げるため、3組の留学生が出演してくれた。グリボスタン・アルキンタイさん（中国）はご主人と一緒にウイグル民族の歌とダンスを披露し、カルロスさん（パナマ）は日本の曲を、キム・レホンさん（韓国）は韓国の曲を披露してくれた。会場からは多くの拍手と歓声が上がり、非常に見ごたえのあるパフォーマンスとなった。その他、当日は会場に多くの留学生も足を運び、地域の方々との交流を深めていた。来日間もない留学生達も茶道体験などを通じ、早速日本の文化に触れていた一幕も見受けられた。オホーツク管内において最大の留学生を抱える本学として、今後も地域住民の方々とも触れ合う機会を大切にし、地域に貢献したいと考えている。



### 【学生代表コメント】

角地 優子さん

（マテリアル工学科4年）

今回の研修に参加できたことは、私にとって視野を広げられる、とてもよい機会になったと思う。研修先の大学では、韓国語や韓国のお茶について学ぶことができた。また、菓草のフェスティバルや博物館、復元したお城、飛鳥時代に存在した百済に関する場所、港、釜山など多くの場所に行くことができた。小中学生の時に歴史で、ほんの少し出てきた、百済という韓国の昔の国の1つを大学生になって、再び触れる機会があるとは思わなかった。そこで、日本と韓国の文化のつながりを感じた。今回の短期交流研修で、もっといろいろな国に触れてみたいと思った。留学してみたいとも思った。日本もいい国だとは思っている。しかし、もうそれだけでは、足りないように思う。グローバル化がかなり進んでいる現在、他の国の文化や様子を触れることによって、その国の人と親しくなれると思う。



## 海外交流研修・語学研修説明会 【10月11日（金）・A208】

本学主催の2013年度冬季・海外交流研修及び語学研修の説明会が昼休みに行われた。毎年1月の第一週には中国ハルビンでの雪像大会への参加、2月中旬から3月中旬までは台湾での中国語語学研修が企画されている。当日は、数名の参加学生ではあったものの、引率を担当する国際交流センター教職員及び中国語語学研修経験者から詳細な説明が行われた。参加学生はいずれも一年生で、過去に海外渡航を経験している学生や初めて海外へ一歩を踏み出してみようとする学生であった。過去の例からも海外研修へ参加した学生達は、大学での学習意欲の向上をはじめ、人生設計をしっかりと考えられるようになり、研修のメリットは非常に大きいと考えている。そのため、本学としても多くの学生に参加を呼びかけ、最大の成果を挙げられるように取り組んでいる最中である。

### 【中田 光さんのコメント】

フェアバンクスは、アラスカ第二の都市で、人口は99,192人。面積は、北海道の20倍。冬は寒く、夏は過ごしやすい気候であった。冬は平均-20度前後で、寒い時には-40度にもなったこともある。留学中、オーロラを見ることもできた。去年の今頃はフェアバンクスにいたので、ハロウィンにも参加し、留学生生活を満喫していた。

Q 日本の大学との違いは？

A ①宿題があり、勉強時間が多かった。  
②学科、学年に関わらず、多くの人と仲良くなった。

Q 冬の日照時間は？

A 3時間程度。(11:00~14:00)

Q 留学生数、日本人学生数は？

A 留学生はたくさんいた。  
日本人学生は10人だった。

Q おいしかった食べ物？

A サーモン。でも、一番はマック！

Q 物価は？

A 物によって異なる。  
日本とさほど変わらない。

Q アラスカの冬は？

A 風もなく、穏やかだった。

Q アラスカの人の休暇の過ごし方は？

A ハワイに行く人が多かった。



### 【10月31日（木）・ミーティングルーム2】

“Trick or treat!” Cアワー初となる Halloween が本学で開催された。当日は、ハロウィンを盛り上げるため、参加者は仮装をし、会場入りしていた。普段のCアワー以上に装いをこらし、雰囲気でも楽しめる空間となった。ハロウィンといっても、メインは昨年本学の国際交流締結校であるアラスカ大学フェアバンクス校（アメリカ）へ留学した中田さんの留学体験であった。本学では先方大学からの受入れは行った経緯はあるが、派遣は彼が初めてであり、現地での生活について語ってくれた。

### 今後の予定(11月~12月)

11月5日（火）月曜日授業振替

11月9日（土）平成25年度北見市国際交流 カーリング体験（常呂町）

11月17日（日）～18日（月）留学生工場見学（室蘭市）

11月29日（金）休講（推薦入学試験のため）

12月10日（火）総合工学 研修・留学報告会（講堂）

12月18日（水）金曜日授業振替

12月19日（木）～1月5日（日）冬季休業日



発行所：北見工業大学国際交流センター

住 所：北見市公園町165

電話番号：(0157) 26-9370

FAX：(0157) 26-9373

Email：kenkyu05@desk.kitami-it.ac.jp



北見工業大学